しりーず

映画とひまわり

■その２ 夏ロケ編■

広報なよろ４月号から続く

あわただしく始まったロケ

映画撮影にあたり、最初に道立サンピラーパークにある家（奥津家）の建設工事が始められました。

東宝のデザイナー・美術スタッフが先発隊として来名し、市内の業者の方と打ち合わせをしながら、７月の上旬から工事が開始され、わずか１カ月で建ってしまいました。なぜなら、外見は立派な家ですが、構造的にはセットだからです。

かくして、家（セット！？）は完成し、次に映画制作部（テレビのディレクター・アシスタントディレクターなどのスタッフ）が名寄入りし、先行準備や私たちとの詳細な打ち合わせが始まります。

もちろん、本格的なロケの段取りは、私たちにとっては初めての経験です。全て手探りの状態で、市内の業者さんに発注や様々な用具の用意。さらには「毎日弁当ばかりでは飽きるので、炊き出しを行ってほしいい。」とのリクエスト。これまでに炊き出しボランティア経験をもつ団体の協力が得られ、様々な要望に応えていただきました。（最終的には「名寄のまかない料理は最高に美味しかった。」とスタッフが絶賛。）

そんなバタバタの打ち合わせ・準備を行いながら、８月１０日に本隊・役者さん総勢７０人以上が来名、８月１２日のサンピラーパーク撮影から本格的に撮影が開始されました。

待ち時間と天気が勝負

スタッフは各部に分かれており、撮影部・照明部・衣装ヘアーメイク部・車両部・録音部・美術部、さらにはドックトレーナーと、それらを取りまとめるのが制作部です。

私達も初めてみる撮影でしたが、最も感じたのは映画の「待ち」の時間の多さです。８月１４日は智恵文ひまわり畑でお父さん（西田敏行さん）とハッピーのポスターにも使われている撮影でしたが、雨が降り出し、撮影がストップしました。しかし、スタッフは雨が止むのを待ちます。とにかく待ちます。その他の撮影においても、最高のロケーションになるまで待ちます。とにかく待ちます。

そして、ハッピーも役者犬といえども、やはり犬です。監督の思いどおりになるまで、スタッフは色んな音を鳴らしたり旗を振ったり、あの手この手で気を引こうとしています。その間、隣の西田さんは待ちます。とにかく待ちます。

また、映画人の“こだわり”を垣間見ることもできました。朝６時から夜の12時までの撮影も何日もよくあること。スタッフは、よく「太陽と天気が勝負」と言います。昼の映像は、太陽が沈むまで。明日晴れるとは限らないからです。やれるものは即、妥協を許しません。そして、ない物は何でも作ってしまいます。ハッピーの前に草が欲しかったら、スタッフが何人も草を手に持って並べます。スタッフがカメラに写らなければ立派な草むらの完成です。雨が欲しければ雨を作るため、消防車も出動してしまいました。

そして何より凄かったのは、スタッフのスタミナです。こんな撮影をしていたら、私たちは毎日フラフラです。そんな中でもスタッフは毎晩、飲食に繰り出していたそうです。去年の８月は名寄の歓楽街は大変な賑わいと多大な経済効果をもたらしました。

そんな撮影が、智恵文（微生物応用技術研究所名寄研究農場）のひまわり畑、ふうれん望湖台自然公園、商店街、市立大学、市役所、図書館、火葬場と市内各所で８月２７日まで行われ、一行は８月２８日に次のロケ地の石狩市へ向かいました。

スタッフからの感動的な言葉

スタッフの皆さんが口を揃えて「名寄は素晴らしいまち。こんなに便利なまちはめったにない。ほとんどのまちの機能が、歩いて行ける距離にある。市民の皆さんは親切。そして食べ物が美味しい。」とおほめの言葉。名寄市民として、こんなに嬉しい言葉はありません。

その後、ロケ隊は９月いっぱい東北、東京での撮影を行いました。

かくして、夏のロケはかかわった人々の映画への期待とともに、１カ月間続いたお祭りのように去って行きました。

（広報なよろ６月号「映画とひまわり～その３、冬ロケ編」につづく）

経済部営業戦略室